

学校生活のはじまり = 社会との関わりのはじまり

子どもは社会生活の中で個性を磨いてきます。日々の中で得意なことを知ったり、苦手なことを知ったりすることはとても大切です。社会との関わりをしていく上で教えていくべきことは、その都度、繰り返し伝えていくことが大切です。

“あいさつ” ははじめの一步

あいさつは心と心をつなぐための第一歩。自然なあいさつは、日々の生活の中で身に付けていくものです。まずは家庭の中で親が基本的なあいさつを子どもの前でするところから。子どもはおやのふるまいをみて学びます。



いけないことは「いけない」

子どもは善悪の区別ができて、「いけない」と言われたことをしなくなってしまいう気持ちも併せもっています。いけないことをした時は、「なぜいけないのか」をしっかりと諭しましょう。



ときには「がまん」も必要!



“もの” “時間” “お金” など、欲しいものは、いずれは自分で手に入れなければいけなくなります。手に入れるにはどうしたらいいのか。『本当に必要なのか?』一度「がまん」をして親子で考えてみるのもいいかもしれません。

整理・整とんはスモールステップで

整理・整とんは大人でも得手不得手があります。ただ、苦手な人でもできるような工夫はいくらでもあります。まずは、「使ったものは元の場所に戻す」ことから。「本人にやらせる」ことよりも「整理・整とんされていると気持ちいい」を味わえるように手をさしのべていきましょう。

つい、こんなことしていませんか?

頭ごなしに・一方的に叱る

叱らなければならないときは、子どもが成長するチャンスです。だからこそ、頭ごなしに否定したり、一方的に言い放つのではなく、「なぜ叱られたのか」がわかるよう、目を見て伝えましょう。自分の怒りが大きすぎるときは、叱るときではありません。



だれかや過去と比較する

兄弟姉妹や他の子どもと比較して話していませんか?どの子どもも、世界に一人だけの存在です。誰かのようになりたいと感じるかどうかはその子ども次第なのです。

- ▲「お兄ちゃんはできたよ」
- ▲「他の子はちゃんとやってるよ」



親がすぐに口や手を出す



すぐにやってあげたり、口を出してしまったりしていませんか?一緒にやりながらコツを伝える、失敗の修復よりも挑戦をほめるといったことが成長の近道です。

子どもの前で人のことを悪く言う

子どもの前では人のことを悪く言わないことが大切です。子どもは親の言うことを信じます。身近な人の悪口を聞くと、その人を信用しなくなってしまう。

